

3 研究一年目のまとめ



3 研究一年目のまとめ

(1) 幼稚園・小中学校の実践より

① 成果

- 教師が人権とは何かを考え、意識して保育・授業を行ったことで子どものよさに気付くことができた。さらに、そのことが園児、児童生徒にも伝わり、思いやりの気持ちをもって他の人ともかかわることが出来るようになってきた。
- 友だちのよさを認め合ったり、思いやりの気持ちをもって生活したりする姿が見られ、人権の芽が育ってきたように感じる。
- 日々の保育・授業の中に、「5つのK」を意識し、発表したり活躍したりする機会を取り入れてきたことで、自分に自信を持ったり、友だちのよさを認めたりする姿が見られるようになった。
- 教職員、児童生徒、保護者、地域の方など、教育活動に関わる人たちと共に人権教育活動を展開できたことは、同じ考えや思いを持ち、同じ方向を向いて活動するきっかけとなり、教育活動を展開する上でとてもプラスになった。
- 性の多様性について考える授業など、個別的な人権課題に関する授業も行われるようになってきた。

② 課題

- 保護者に対して、人権教育についての基本的な知識についてもさらに啓蒙していきたい。
- 教師が人権について学び、様々な人権に対する考えがあることに気付いた。次年度に向けて研修や話し合いを重ね、一人一人のよさを見つけ尊重し合える子どもの育成に努めていきたい。

(2) 会津坂下町人権教育の実践より

① 成果

- 一つの学園構想のもと、幼稚園、小学校、中学校、高校などとの異校種間の連携や交流を通して、互いのよさや自分のよさに気づくことができた。
- 会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業の実践を町内幼稚園・小中学校の全教員が行うことで、自分もそして他の人も大切にする保育・授業を実践することができた。
- 地域をはじめ、家庭との連携など、様々な交流や活動を通して、自他を大切にする人権意識が高まってきた。特に、会津坂下町人権教育総合推進会議を組織して活動することで、町人権擁護委員の方々をはじめ、各校PTAともこれまで以上に連携を図れるようになった。
- 人権教育の指定を受けて一年目。授業研究会や講演会等を開催することで、教員の人権教育に関する理解が深まった。

② 課題

- 教職員も園児、児童生徒も「人権感覚」という点では、まだまだ不十分と言える。各種研修や、学校の教育活動全体を通して、「人権感覚」を更に磨いていかなければならない。

(3) 人権に関するアンケート集計結果より

① 成果

- 町内小学3年生～中学3年生、町内小中学校保護者、町内幼小中学校教職員、計1790人を対象にアンケート調査を実施することができた。このこと自体が大きな成果であると考えているが、次年度はその変容についても調査していきたい。

② 課題

- 今年度の調査からは、大きく問題があるものはなかったが、項目別にみると、児童生徒の回答において、マイナス回答が1割に及ぶものもあることから、さらに人権教育を推進する必要がある。



**笑顔あふれるまち、
あいづばんげ**